

〈広島支部〉

## 中国地区の大学での特色ある取組

——高梁学園ボランティアセンターの紹介——

### 一 はじめに

平成一八年一月一七日、阪神・淡路大震災から一一年目にあたるこの日、高梁学園ボランティアセンター（以下「学園センター」という）を訪問した。高梁学園のボランティアに対する取組は、以前より高く評価されている。その中でも、今日は、「災害復興支援ボランティア」に関する取組を中心に報告したい。

### 二 高梁学園ボランティアセンターの概要

「学園センター」は、平成七年の阪神・淡路大震災で学生がボランティアとして活躍したこと及び平成一二年に吉備国際大学に福祉ボランティア学科が設置されたことを機に、平成一三年九月に設置された。岡山県の吉備国際大学、順

正短期大学、順正高等看護専門学校と宮崎県の九州保健福祉大学、九州保健福祉大学総合医療専門学校五校にそれぞれボランティアセンターを有し、「学園センター」が統括する位置付けにある。

「学園センター」では、各ボランティアセンター独自の活動を尊重しつつ、「地域に密着した特色あるボランティア」をコンセプトにもち、

①自然災害等被災地への「災害復興支援」

②施設等からの要請に対しボランティアを派遣したり、地域の環境保全のための森林ボランティア活動を行う「地域貢献」

③海外での協力活動を実施する「国際貢献」

④学内の障害学生への情報保障を目的とした「障害学習支援」

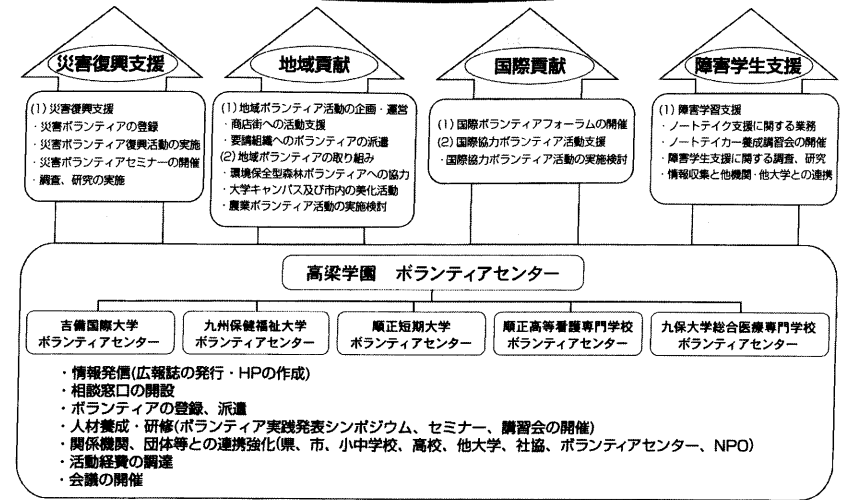
という四つのセクションを設けている。「学園センター長」には高梁学園理事長があたり、専任職員二名及び学生スタッフ三〇名が活動している。

### 三 「災害復興支援」ボランティア

吉備国際大学では、平成一五年三月岡山県、岡山県社会

高梁学園ボランティアセンターイメージ図

地域に密着した特色あるボランティア活動



生の「災害ボランティア登録」という制度を立ち上げた。災害発生時からの時間軸を基に学生の可能な活動をあらかじめ登録しておく、発生後より速やかに被災地の求めている支援活動(内容)に対応したボランティアを派遣できる体制整備である。岡山県のキャンパスには約四二〇〇名の学生が在籍しており、現在約三〇〇名が災害ボランティア登録をしている。

四 「ボランティア活動の推進」について

「学園センター」災害復興支援山河セクション長・仲村事務長代理に話を伺うと、「学生へ災害復興に対する意識啓蒙を行い、学生の災害ボランティア登録を進めていきたい。また、この他にも様々なボランティアがあり、一人でも多くの学生に体験してもらい、活動を通して自分の可能性を発見したり、自分作りをして欲しい」という。また、学生たちの中には、自主的に地域の清掃ボランティアを始める者も現れ、頼もしく感じているとのことであった。前述の学生もボランティア活動とおしていろいろな経験ができ、自分を成長させる場、必要とされていること・頼りにされていることへ満足感を得ているように感じた。

福祉協議会と「災害時における被災者支援ボランティアに関する協定書」を締結し、岡山県内で大規模な災害が発生した場合、ボランティア活動を迅速かつ効果的に実施する体制づくりを進めてきた。

平成一六年八月台風一六号の高潮被害により岡山県玉野市が被災した時、「学園センター」が中心となり災害支援ボランティアを組織し活動を開始した。夏休み中という学生の少ない時期ではあったが、教職員を含めたべ五六名が参加した。活動は、玉野市災害ボランティアセンターと連携して実施し、一日目、二日目は高潮で海水に浸かった家財等の搬出作業、三日目は独居老人や高齢者の訪問等を行った。実際にこの活動に参加した吉備国際大学の学生によると、「被災者のニーズは、日時とともに変化していく」「災害ボランティアは、発生後すぐに駆けつけたいと意味がない」という教訓を得ている。

平成一七年には、体制整備を行う目的で、前年の高潮被災者を対象に災害ボランティアに関する意識調査を行った。ここで特筆すべきことは、被災者にとって「一番頼りになったもの」は、家族・親族について「ボランティア」という回答があったことである。

これらの経験・結果等をふまえ、全国的にも先進的な学

五 おわりに

「学園センター」では、他の三つのセクションでも、多種多様な魅力的なプログラムを用意し、未来を担う学生たちに様々な成長の場を提供していることに感動をおぼえる。

広島支部としては、様々な機会をとらえ、今後中国地区の高等教育機関の魅力ある取組を紹介していきたいと考えている。今回取材に際し、ご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

